





# 全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（3年）

## 今年度の分析

全体の概要	
国語	全体の正答率は、県をやや下回り、全国を大きく下回っている。観点別では、「話す・聞く」「書く」「読む」は県平均とほぼ同じであるが、「知識・理解・技能」は大きく下回っている。
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>話し くす</p> <p>話し合いの流れを踏まえて自分の考えを書く設問が特に低く、県に対してやや下回り、全国に対して大きく下回っている。</p>	<p>話し合いの流れや内容をきちんと理解するだけでなく、条件に応じて自分の考えを構築する段階まで学習を深める。</p>
<p>書 く</p> <p>設問に対して自分の考えは書けているが、指示された条件を踏まえて答えることができていない。</p>	<p>複数の条件を踏まえて書きまとめる学習を取り入れる。また、条件そのものの理解にも力を入れる。</p>
<p>読 む</p> <p>文章の要旨をとらえる設問の正答率が低く、県に対してやや下回り、全国に対して大きく下回っている。</p>	<p>キーワードを的確にとらえさせ、接続表現等にも注意させながら、文章を読み取らせていく。</p>
<p>知 識 ・ 理 解 ・ 技 能</p> <p>語の一部を省いた表現の説明ができていない。全国に対して大きく下回っている。</p>	<p>略語の意義や効果について理解を深め、生活の中で活用できるようにさせる。</p>

全体の概要	
数学	全体の正答率は県平均とほぼ同じである。内容・領域別に比較したときは「数と式」「図形」「資料の活用」は県平均とほぼ同じである。一方、「関数」は県平均を大きく下回っている。
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>考 え 方</p> <p>県平均とほぼ同じである。ヒストグラムや図形の証明の問題の正答率は県平均に比べてやや低い傾向にある。</p>	<p>授業の中でも自分の考えをグループで共有する場面を設定する。 また、定期テストでも記述式の問題を出題する。</p>
<p>技 能</p> <p>県平均とほぼ同じである。反比例の問題の正答率は県平均に比べてやや低い傾向にある。</p>	<p>基本的計算能力の定着を図るために、課題や小テストを利用して多くの問題を取り組ませる。</p>
<p>知 識 ・ 理 解</p> <p>県平均とほぼ同じである。反例の意味を理解しているという問題の正答率がやや低い傾向にある。</p>	<p>授業の最初に振り返りを行う。 また、授業の中で数学用語の確認を行い、数学的表現を使って説明することで定着を図る。</p>

全体の概要	
英語	無解答率は全体的に低い。何かしら書こうとする姿勢が見られる。 読んだり、聞いたりして、自分の考えを英語で書くことを苦手とする生徒が多い。

分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
聞くこと	日常的な話題であれば、簡単な語句や文で言われたことは、大まかな内容を聞きとることができる。		聞いたことで、キーワードをメモして概要をつかむ活動を行う。また、それを簡単な英語で書き直させる取り組みなど工夫をする。
話すこと	教科書の基本文や英作文で書かせた事項については話せるが、授業で慣れていない表現が出てくると対応できない。		帯学習でやり取りをしながら、スピーキングテストで確認をする。
読むこと	読んで理解し、それに対して意見を持ち、英語で表現することに課題がある。 内容理解だけであれば大まかに読み取ることはできている。 話題になっていることを知らない生徒		日頃の課題で、教科書ではあつっていないトピックの簡単な文章を読ませる。
書くこと	基本的なこと、教科書やワークに似た形式の問題は解けている。自由に書く問題や訓練されていない問題形式に対応できていない。		まず、基本文をしっかり書けるようにする。書かせる前に、ペアやグループで考えを共有させ、自分の考えを深める機会を作る。

## 全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（3年）

### 【 数値が特に高かった項目 】

- ・朝食を毎日食べていますか。

分析と改善に向けた具体的取り組み事項
生徒の86.1%が、毎日朝食を食べている。全く食べていないのは0.6%で1名だった。学級、部活動や昼食時の生徒会の放送などで、食事をとることの重要性を頻繁に呼びかけている。

### 【 数値が特に低かった項目 】

- ・1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。

分析と改善に向けた具体的取り組み事項
佐賀県全体で当てはまると解答した生徒の割合が36.3%に対し、本校は29.7%にとどまっている。どちらかといえば当てはまらないの割合は本校が高い割合である。 低学年時から、そういった機会を設定する必要がある。